令和７年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
成果報告書
①（基礎データ・公演事業の実績値等）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	公益財団法人岡山文化芸術創造
施設名	岡山シンフォニーホール
内定額	6,236　（千円）

（1）令和7年度　助成対象事業一覧

※実績報告書様式13－2(2)事業内容 から転記してください。
　複数の事業類型（公演・人材・普及）が助成対象となっている場合は、それぞれすべて転記してください。

事業番号	事　　業　　名	実施日程	実施会場
人-01	ミュージカル　アカデミー	令和7年4月～令和8年3月	岡山芸術創造劇場ハレノワ内
人-02	あなたも岡フィルと共演しませんか シリーズＸＸ　I am a SOLOIST	令和7年9月21日	岡山芸術創造劇場ハレノワ 大劇場
人-03	The MOST in JAPAN 2025　岡山公演	令和7年11月18日	岡山芸術創造劇場ハレノワ 中劇場
普-01	小・中学校音楽鑑賞教室	令和7年6月19日	岡山芸術創造劇場ハレノワ 大劇場
普-02	ファミリーコンサート	令和7年8月24日ほか	真庭エスパスホールほか
普-03	レインボーコンサート	令和7年5月～令和8年3月	山陽学園附属幼稚園ほか
普-04	岡山大学Jホールレインボーコンサート	令和7年4月～令和8年3月	岡山大学Jホール

（2）〔基礎データ〕

※　交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※　実施中止分を含まない実績値を記入してください。

【1. 事業本数】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
年間事業本数（※1）	主催事業	25	24	23
	公演事業	12	11	10
	（内、本助成対象事業本数）	10	9	0
	人材養成事業	8	8	8
	（内、本助成対象事業本数）	3	3	3
	普及啓発事業	4	4	4
	（内、本助成対象事業本数）	3	3	4
	共生社会事業			
	（内、本助成対象事業本数）			
	その他　内容：　記入してください	1	1	1

※1　事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

【2. 貸館日数】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
貸館日数	ホールごとの貸館日数	928	814	150
	ホール名：大ホール　座席数：2001	196	186	32
	ホール名：イベントホール　座席数：200（定員）	227	197	43
	ホール名：和風ホール　座席数：100（定員）	127	110	21
	ホール名：スタジオ1　座席数：120（定員）	194	166	30
	ホール名：スタジオ2　座席数：30（定員）	184	155	24

【3. 施設利用者数（事業利用者数）・開館日数・利用可能日数・利用日数・利用率】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数	25,525	22,765	6,797
	公演事業	17,143	16,103	6,269
	人材養成事業	5,698	3,849	114
	普及啓発事業	2,035	2,600	215
	共生社会事業			
	その他　内容：オーディション・会議等	649	213	199
	貸館事業入場者・参加者数	162,434	157,287	22,414
	その他　内容：共催等	4,141	1,653	0
	計	192,100	181,705	29,211
開館日数		265	258	48
施設の利用可能日数（＝365－（保守点検日数+休館日数））				
施設の利用日数				
施設の利用率(%)（＝利用日数/利用可能日数）		0.0%	0.0%	0.0%

備考	※大規模改修工事に伴い、令和7年6月から休館

※2　実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。
劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設（美術館、図書館等）のみへの入場者、事業関係者（出演者、指導者、スタッフ等）は除きます。
レジデントカンパニー・アーティストの稽古利用等の場合は「その他」に記入してください。

【4. 公演事業データ】

※ 交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※ 実施中止分を含まない実績値を記入してください。

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	事業本数内訳						
					演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合（※3）	その他
令和5年度	主催公演（※1）	11	11	13,102		11					
	共催・提携公演（※2）	3	3	4,035		3					
	貸館公演	111	118	132,071	1	69	8				33
	計	125	132	149,208							
令和6年度	主催公演（※1）	11	13	13,770		11					
	共催・提携公演（※2）	1	1	1,625		1					
	貸館公演	106	109	124,300	6	72	5				23
	計	118	123	139,695							
令和7年度	主催公演（※1）	2	2	3,160		1					1
	共催・提携公演（※2）	0	0								
	貸館公演	15	17	17,957		10					5
	計	17	19	21,117							

※1 名義主催は除きます。
※2 名義共催を含みます。
※3 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

（3）各公演事業における実績値 及び 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標（値）・実績（値）

- 公演事業について、助成対象事業ごとに目標（値）と実績（値）を記入してください。
- 入場者数・入場者率（目標値）は**「交付申請書」**から転記してください。
- 有料入場者数・有料入場者率（目標値）および評価指標・目標（値）は**「評価補助シート」**から転記してください。

※有料入場者率（%）の計算方法＝**有料入場者数÷公演の設定席数（実績値）合計×100**

事業番号	事業名		入場者数	入場者率	評価指標	目標（値）	実績（値）
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					

令和７年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

成果報告書

②（評価）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	公益財団法人岡山文化芸術創造
施設名	岡山シンフォニーホール
内定額	6,236　（千円）

（1）各公演事業の自己評価

「成果報告書①（基礎データ・公演事業の実績値等）」に記載の入場者率・評価指標・実績（値）等に言及しつつ、自己評価と自己評定（※1）を記入してください。

（※1）…S～D で記入してください。

※太枠内に記入してください

事業番号	事業名	自己評価

※行が足りない場合は適宜追加してください。

（2）自己評価

評価項目①：創造性・企画性

（※1）…S～D で記入してください。

評価の観点	・（企画力）地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・（制作力）優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・（発信力・影響力）圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・（レジデントカンパニー・アーティスト）当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。	
	・自由設定の観点（任意）（※2）	

（※2）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

	評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
公演事業			
人材養成事業	①専門人材育成事業での育成者数の累計数・・・ ②育成対象者の公演実施後の反応・・・ ③指導者による評価・・・	①3 事業で 609 人、13 団体(前年度までの実績 575 人、13 団体) ②ｱﾝｹｰﾄで好評価を得る(「期待通り」もしくは「期待以上の」成果ありの回答が 90.2%以上)(前年度実績 90.1%) ③ｲﾝﾀﾋﾞｭｰで概ね好評価を得る。成果と今後の課題を把握する。ｱﾝｹｰﾄにより、指導者から見た課題への取り組み達成度が 96.0%以上(前年度実績 95.5%)	①　3 事業で 614 人、13 団体 ②　3 事業合計で「期待通り」又は「期待以上」の回答は 78.8% 成長を実感した対象者が多く好評価に繋がった。本番時緊張などで実力が発揮できなかった対象者は、厳しく自己を評価している。 ③　ｲﾝﾀﾋﾞｭｰではすべての指導者が高評価をつけた（100%）。本公演までの準備期間には個人差があったが、短い期間にも真摯に取り組む姿勢を指導者は高く評価していた。

普及啓発事業	①全事業の参加者数・・・	①総参加者数 3,400 人(前年度実績総参加者数 3,542 人)	①　総参加者数 4,376 人
	②初めての来館(参加)者数・・・	②ｱﾝｹｰﾄ回答者の 36.0%以上が「初めての来館(参加)」と回答(前年度実績 35.6%)	②　初めての来館（参加）回答が 43%であった。中でもﾚｲﾝﾎﾞｰ(四季)ｺﾝｻｰﾄの 4 公演のみでは 72.9%が「初めての来館」と回答
	③関係者(受入先等)による評価・・・	③「また実施してもらいたい」との回答が 80％以上(前年度実績 100%)	③　「実施してもらいたい」77.8% 「実施希望だが改善必要」22.2% 合計 100%であった。
	④参加者の反応・・・	④-1.ｱﾝｹｰﾄ回答者の 90%以上が「また来たい(参加したい)」と回答(前年度実績 89.7%)	④-1「また参加したい」との回答が 92.3%であった。
		④-2.ｱﾝｹｰﾄ回答者の 60%以上が「人にすすめたい」と回答(新規)	④－2　「人にすすめたい」90.3%と回答
共生社会事業			

（※３）・（※４）…Ｒ７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、事業類型ごとに太枠内に自己評価を記入してください。

公演事業	
自己評価	

人材養成事業	
自己評価	「①専門人材育成事業での育成者数の累計」および「③指導者による評価」において、達成度は 100%であった。特に指導者からの評価が高く、準備期間の短さに屈せず真摯に取り組む受講生の姿勢が高く評価された。これらから、本事業の教育プログラムとしての質は環境・内容ともに高い水準であるといえる。指導者と受講生の信頼関係も構築されており、指導者が受講生や若年の演奏者の未来での活躍に期待しつつ、自己の経験を適切に伝えようと努める姿勢もうかがえる。このことから、本事業が次世代を担う人材育成の場として、非常に健全な発展を遂げているといえる。 これらは、当館が有する自己実現の環境提供という制作力と、30 年以上を周辺地域と協力し構築してきた地元指導者や支援者とのマッチングという拠点能力が、休館中であっても発揮された結果と言える。 一方で「②育成対象者の公演実施後の反応」は実績値: 78.8%であり、目標（90.2%）を 11.4pt 下回った。ただし、②は受講生・出演者自身の課題設定の高さと本番での自己満足度によるものであり、より高みを目指す長期的目標のなか、目の前の達成度を厳しく評価したためと言える。 本事業を経て、受講生・出演者は自身の表現における課題を再度認識しており、世界へ羽ばたく表現者を目指す過程においての着実な実績を積んだものと考えられる。事業実施における改善点としては、達成感を客観的に認識できる項目をｱﾝｹｰﾄに加えることで、事業実施後のメンタル面でのフォローアップにもつなげることのできる指標の設定を検討したい。

普及啓発事業	
自己評価	事業全体としての達成度は高く、「①全事業の参加者数」「②初めての来館(参加)者数」「③関係者(受入先等)による評価」においては、想定を上回った。特に「①全事業の参加者数」では、目標数を約 1,000 人上回っている。「②初めての来館(参加)者数」においても「(四季を彩る）レインボーコンサート」では 7 割超という驚異的な新規率を記録しており、加えて「人にすすめたい」という回答が 90.3%に達した点は当館の事業が圏域内外の実演芸術を牽引する強力な波及効果を持っていることを示している。岡山シンフォニーホールは現在改修工事のため休館中ではあるが、物理的な拠点を離れてもなお、当館が地域社会における「実演芸術の牽引役（発信力)」として十分に機能し、レジデントカンパニーである岡山フィルを十二分に活用し、そのアーティストと地域ファンとの絆が広く深くなっていることも集客性向上につながっている一因である。周辺地域に踏みだした活動を行ったことで、これまでに獲得できなかった新たな参加者の掘り起こしに成功しているといえる。 唯一、「③関係者(受入先等)による評価」において、「また実施してもらいたい」が 77.8%と目標（80%）をやや下回った点は、今後の運用面での課題と言える。特に老人ホーム・病院施設との連携においては、施設対応者との十分な打ち合わせにおいて、施設側が期待する内容に施設特有の問題点が潜んでいる可能性があり、より綿密なヒアリングと実施内容への反映が周辺施設との信頼関係をさらに強固なものとし、持続可能な協力体制を築いていくことに繋がるものと考える。

共生社会事業	
自己評価	

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目②：国際性（任意）

評価の観点	・（国際プレゼンスの向上）海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・（国際交流）アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・（新たな創客への取組）在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。	
	・自由設定の観点（任意）（※２）	

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）
①参加者自身による海外での活動に向ける関心･期待値・・・	①-1 The MOST において、ﾓﾝﾃｶﾙﾛ･ﾌｨﾙﾊｰﾓﾆｰ管弦楽団で活躍中のﾌﾞｧｲｵﾘﾆｽﾄ福田廉之介氏から、海外ｵｹでの経験をｿﾘｽﾄに伝えてもらう機会を設ける。 ①-2 選出されたｿﾘｽﾄたちへのｱﾝｹｰﾄにて、「The MOST 出演を通じて海外での活動に向ける関心･期待値が高まったか?」を問い、「はい」50%以上を想定。	①福田廉之介氏からの海外経験の共有のみならず、The MOST のほかメンバーからも海外での活動に向けて、具体的な経験談の共有があった。 ①-2 ｱﾝｹｰﾄでは「海外での活動に向ける関心・期待値」について全員が「はい」と回答した（100%）。 ｿﾘｽﾄｱﾝｹｰﾄには「ヨーロッパ音楽についても色んな事を知れて良かった。」などの回答が見られた。

（※３）･（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	「若手演奏家の育成」を目的とする本事業において、国際性は、「演奏家側（供給側）の国際化」に特化したものとして発揮された。特に、海外で活躍するヴァイオリニスト･福田廉之介氏が主宰する The MOST メンバーの多くが海外での活動実績を有しており、若い演奏家に積極的に経験を伝えてくれた。また、The MOST メンバーの人脈が海外一流アーティストに繋がっており、招聘によるレジデントカンパニーへの好影響もレベルアップに繋がっている。なにより、若手演奏者の国際的なキャリア形成に対するマインドに100%の変化をもたらした。このことから本事業の経験が教育的価値の極めて高い成果を成したと言える。 今後は、アウトバウンド・インバウンドの両立が課題である。現状は「海外の知見を取り入れる」段階にあり、今後ますます、本事業で育った演奏家の海外進出が増加すると見込まれる。多言語での公演解説による外国人観客の集客や海外活動の支援など、事業の幅を広げていくことが求められている。

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目③：地域文化拠点機能

評価の観点	・(文化拠点) 地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・(地域連携) 地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・(児童生徒への機会提供) 次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。	
	・ホール利用サービス（貸館事業）の向上（任意）（※２）	利用にかかるアドバイスや支援が適切に行われている。
	・自由設定の観点（任意）（※３）	

（※２）・（※３）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※４）	目標（値）（※５）	実績（値）
①　貸館利用者の満足度・・・	①前年同様、94%以上が対応に「充分満足」と回答(前年度実績 94%) 前年同様、75.4%以上が「次回も利用したい」と回答(前年度実績 75.4%) ※ﾎｰﾙ休館のためｱﾝｹｰﾄ取得は 4～5 月分のみ	①「充分満足」は 88.9% 「次回も利用したい」は 77.8% ※ﾎｰﾙ休館のため 4～5 月の 2 か月のみ 「利用申し込みの時から親切にしていただき、安心できた」などﾎｰﾙｽﾀｯﾌの適切な対応へｺﾒﾝﾄが寄せられている。
②未就学児から入場できる公演への総参加者数・・・	②1,310 人以上の参加者を得る(前年度実績 2,775 人)	②総参加者数 1,718 人
③市内小中学校の参加率(累計)・・・	③目標:52.2%(71 校/136 校) (前年度実績 52.2%(71 校/136 校))	③51.4%(71 校/138 校)
④連携団体数(教育機関、福祉分野等)・・・	④23 団体との連携を実現(前年度実績 21 団体)	④　連携団体 23 団体
⑤ｼﾋﾞｯｸﾌﾟﾗｲﾄﾞの醸成・・・	⑤ﾎｰﾙが休館に入るため、ｱﾝｹｰﾄの質問項目を「岡山ｼﾝﾌｫﾆｰﾎｰﾙにどのような気持ちを持っているか」に変更し、「誇りに思う」「やや誇りに思う」との回答が 80%以上(前年度実績「岡山ｼﾝﾌｫﾆｰﾎｰﾙに愛着を感じる」との回答が 82.9%)	⑤　岡山ｼﾝﾌｫﾆｰﾎｰﾙ休館直前の公演となった岡山ﾌｨﾙﾊｰﾓﾆｯｸ管弦楽団第 84 回定期演奏会に於けるｱﾝｹｰﾄより、「岡山ｼﾝﾌｫﾆｰﾎｰﾙに愛着を感じますか？」91%が「はい」と回答した。
⑥生活の質（QOL）の向上・・・	⑥「気持ちがﾌﾟﾗｽへ変化」との回答が 75%以上(前年度実績 75.0%)	⑥　岡山ｼﾝﾌｫﾆｰﾎｰﾙでの演奏会における気持ちの変化として、82.4%がﾌﾟﾗｽの変化と回答（幸せな気持ちになった 40.7%、心地よい気持ちになった 36.7%、楽しい気持ちになった 5.0%）
⑦他者から見た子どもたちの変化・・・	⑦ｱﾝｹｰﾄでﾎﾟｼﾞﾃｨﾌﾞな行動変化の記述を得る	⑦　小中音楽鑑賞教室ｱﾝｹｰﾄより「子供達に笑顔が増えた。色々な楽器に興味を持ち、中学校に行ったら「吹奏楽部に入りたい」と新たに興味を抱

		く児童が多数いる。音楽の授業においても、意欲的に臨む児童が増えた」 ⑧　2025 年度末実績 850 名
⑧岡山ｼﾝﾌｫﾆｰﾎｰﾙ友の会　会員数・・・	⑧ﾎｰﾙ休館のため、前年度実績維持(前年度末実績 907 名)	⑨　企業/91 団体、個人/114 名
⑨岡山ﾌｨﾙﾊｰﾓﾆｯｸ管弦楽団　賛助会員数・・・	⑨前年度実績を維持(前年度実績　企業/93 団体、個人/111 名)	⑩　2025 年度末実績 9 名
⑩ﾎｰﾙｻﾎﾟｰﾀｰ(市民ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ)の数・・・	⑩ﾎｰﾙ休館のため、前年度実績維持(前年度実績 11 名)	⑪　実績値　岡山市で開催した 5 事業の平均値は 34.9%(前年対比-1.1pt)であった。
⑪市外からの観客割合・・・	⑪目標:36%(前年度実績 35.6%)	

（※４）・（※５）…Ｒ７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	岡山シンフォニーホールは、2025 年 6 月からの長期休館という転換期にありながら、「文化の灯を消さない」という方針のもと、地域団体や教育機関と綿密に連携し、拠点的役割を堅持している。 特に次世代層への働きかけを重視し、休館中も岡山市内各所でオーケストラ公演を継続。小中音楽鑑賞会における学校参加率は 51.4%（138 校中 71 校）と、校数の変動により微減したものの、実数値としては前年度水準を維持した。特筆すべきは、鑑賞後の児童・生徒に「吹奏楽部への入部希望」や「授業への意欲向上」といった顕著な行動変化が見られた点である。これは、単なる鑑賞に留まらない、キャリア形成に資する質の高い「体験」を提供できた成果といえる。 また、休館直前のアンケートでは、ホールに対し 91%が「愛着を感じる」と回答しており、30 年の活動を経て当館が市民の「心の拠点」として定着している事実が裏付けられた。休館期間中も、教育・福祉分野など 23 団体との連携を維持するとともに、他館開催時も「岡山シンフォニーホール Presents」を冠した積極的な広報を展開。その結果、市外来場者比率も稼働時と同水準を維持するなど、広域的なブランド力を堅持している。 今後は、リニューアルオープンに向けて市民との「つながり」をより深化させ、ソフト（接遇）とハード（設備）の両面で「充分満足」以上の評価を得られる体制を構築し、利用者・観客・周辺施設からの期待感に応えていきたい。

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目④：多様性とアクセシビリティ

評価の観点	・（プログラムの多様さ）プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・（参画者の多様さ）アーティストやスタッフとして参画する人々の属性（性別、年代、居住地、他）が多様である。 ・（アクセシビリティ）障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。	
	・自由設定の観点（任意）（※2）	

（※2）…R7 年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
①　若年層の利用者割合(ﾕｰｽｼｰﾄ)・・・	①販売総枚数の 9.0%以上で目標達成(前年度実績 9.21%)	①2025 年度実績 3.85% (8 公演･総販売数 6,397 枚のうち ﾕｰｽｼｰﾄ 246 枚)[未達成]
②ｱｳﾄﾘｰﾁ公演で連携した福祉施設､病院､支援学校等の累計数･人数・・・	②目標:101 か所 9,276 人(前年度実績:96 か所 9,076 人)	②　101 か所 9,466 人
③社会包摂の取り組みでの招待者数(ひとり親家庭､震災･災害被災者等)・・・	③7 公演で合計 150 人(前年度実績 7 公演で合計 152 人)	③　6 公演で合計 114 人[未達成] なお、10 月公演から岡山在住の外国人留学生への招待を新たに開始した。岡山在中の経験として公表を博しており、継続実施を予定している。
④参加者にとっての参加しやすさの認知率・・・	④｢この公演はあなたにとって参加しやすいものだったか｣という質問に対して､｢参加しやすい｣の回答が70%以上(新規)	④　70%が「参加しやすい」と回答
⑤ｱｸｾｼﾋﾞﾘﾃｨに関する研修への参加・・・	⑤職員の研修参加者が 2 人以上	⑤　3 名以上が参加 ・7 月 1 日～4 日「ｽﾃｰｼﾞﾗﾎﾞ 茅野ｾｯｼｮﾝ」 ・9 月 17 日「共生社会実現のための人材養成講座」 ・12 月 18 日ｱｰﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ研修

（※3）･（※4）…R7 年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	「②アウトリーチ公演で連携した福祉施設､病院､支援学校等の累計数･人数」「④参加者にとっての参加しやすさの認知率」「⑤アクセシビリティに関する研修への参加」については高い達成度を示した。特にアクセシビリティの主観的評価値を図る設問「④参加しやすさ」において、認知率 70%を得られたことは、現場の創意工夫が実を結んだ証左といえる。 一方で、若年層（ユース）の取り込みは未達成であり、「①販売総枚数の 9.0%以上」目標に対し、実績値（3.85%）と、目標の半分以下に留まっている。更に、「③社会包摂の取り組みでの招待者数」も前年を下回っており、アウトリーチの成功をいかに「劇場への招待」や「特定の困難を持つ層への支援」へ繋げることができるかが次年度の焦点といえよう。ただし､「③社会包摂の取り組みでの招待者数」については、東日本大震災から時間が経過し、移住者が社会的自立を経て正常な日常に戻っていった結果、震災・災害被災者向け招待への応募が減少していると判じられる。加えて会場が岡山シンフォニーホールではなく、倉敷・津山・香川県高松市などであるため、ひとり親家庭の方からは申し込みをためらう動きも見られた。「岡山シンフォニーホールに戻った時はぜひ」などの声もあり、再稼働後もお申込みいただけるよう呼びかけは継続すべきと考える。 今後は、ユース層に向けた SNS をはじめとしたデジタル広報の強化、および若年層が関心を持つ演目の戦略的配置が必要不可欠である。すでに SNS 対応スタッフを事務局内で強化・配置している。レジデントカンパニーアーティストである岡山フィル団員の中には、SNS 担当を自分たちが担いたいとの声もある。デジタルツールを活用した広報戦略の立案が急がれる。

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目⑤：自由設定（任意）

評価の観点	①　創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性　の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。（※２）
	･(児童生徒への機会提供)県下の学校へのアウトリーチ公演を実施し、子どもたちの豊かな感性と情操を育む。 ･(地域連携)地域の関係機関と連携･協力し、地域活性化に取り組む。

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）
①学校公演数(累計)・・・	①1,421 校(前年度実績 1,392 校(H5(1993)年度～))	①1,419 校(前年度実績 1,390 校) ※前年度実績校数に誤りあり
②ｽﾎﾟｰﾂ、美術館、博物館、図書館、商店街、観光施設等との連携数・・・	②12 会場 14 公演(前年度実績 11 か所 16 公演)	②17 会場 24 公演

（※３）･（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	本年度は、長年継続してきた「学校へのアウトリーチ公演」による次世代育成と、「多種多様な機関との連携」による地域活性化の両面で着実な成果を示したといえる。特に地域連携においては、目標を大幅に上回る公演数を実施しており、岡山シンフォニーホールの「社会的拠点ホール」としての影響力が休館期間中でもなお発揮されているといえよう。地域連携の「数」が拡大した現状において、次のステップとしては連携先（商店街や観光施設等）との継続的な関係性構築や、実施による経済波及効果・集客への寄与度など、質の面での分析・検証も、今後深めていく必要があると考える。

（2）自己評価

その他：エピソードやグッドプラクティス事例について

助成対象事業に関連して、心に響くような印象的な出来事や、他館の参考になるような好事例があれば、具体的にご記入ください。

人材育成事業において、実力ある若手演奏家をソリストとして起用する The MOST において、企画を牽引するヴァイオリニスト・福田廉之介氏を始めとしたメンバーから、海外経験を伝えてもらった。結果、明らかに若手演奏者たちの目標に海外での活躍・自己実現がイメージされたことが、終了後アンケートから読み取れた。
＜The MOST　終了後アンケートより＞
「ベートーヴェンの気持ちになって作曲家の心の中や背景を想像して演奏したつもりでした。でも福田さんのお話の中で、演奏家はその曲や作曲家の中に入り込むんだ、ということを知りました。外から『イメージ』するだけで、中に『入り込む』という私に足りなかったことに気づくことができました。」
「MOST のメンバーは世界的に活躍されている方が多く、私もヨーロッパで本場の音楽や絵画、建築、色々な芸術に触れて、感性を磨き、人の心を動かせるような演奏家になりたい、もっと広い世界を知りたい、留学してみたい、と強く思いました。」

普及啓発事業において、本年度はこれまでになく幅広い業種の施設へ赴くことができた。各施設の担当者と協力し、早めに開催までの告知を施設内で行っていただいており、施設利用者・関係者が開催を楽しみに待ってくれている中での演奏とできた。日常空間に生演奏の音楽が現れたことへのダイレクトな感動を伝えてくる感想が多く見られた。
＜レインボーコンサートへの感想・鑑賞者の様子　開催終了後アンケートより＞
「音楽を流すだけでなく、演奏で聴くことの方が利用者にとっても良い刺激になるのではと思います」
「とっても良かったと言ってくださる方が多かったです。デイサービスの方は、利用日を変更して参加してくださったので、楽しみにされていました。」（老人ホーム職員より）
「高 3 の子が〝旅立ち”の曲と自分の卒業が重なり思うところがあったようです。最後の”ホール・ニュー・ワールド”とても感動したと話していました。高校生の中には、今までで一番良い行事だったと話す子もいました。」（こども園職員より）
「患者や職員が日々大変な日常の中で、音楽を通じてほっと心が安らぐひと時を味わうことができたため、今後とも実施していただきたい」（大学附属病院）

長期休館中の**岡山シンフォニーホールの有する拠点ﾎｰﾙとしての存在感**について、休館中ながら訪れたお客様や外部施設での演奏会に来られたお客様から、ホールの思い出と再稼働に向けてのメッセージが多く寄せられている。
＜岡山シンフォニーホール利用者・他館での演奏会来場者からのコメント＞
「シンフォニーはたくさんの人のつながりや歩んできたものに溢れています。素敵なスタッフの方に恵まれています。２年後生まれ変わるシンフォニーも楽しみ。母も頑張る目標が出来て嬉しい。」（利用者）
「（他館利用時）ホワイエや共用部の使い方などアドバイスしてくれたり、一緒に考えてくれたりするスタッフさんがいなくて困った。シンフォニーなら、『何かあったら聞いてくださいね』と色んな人が声をかけてくれるから安心できる。離れてみると改めてシンフォニースタッフさんは凄いと思う。使う側はとても安心です。」（他館利用者）
「(娘さんのヴァイオリンの練習で２年以上前にご利用いただいていた方で、県外に引っ越されることになり利用がなくなったが、久しぶりに事務所を訪ねて来られた。ご利用頂いていた当時、ジュニアオーケストラにお誘いをしていた事を覚えておられ、この度また岡山に転居されるのを機に入団された)あの時、誘っていただいてなかったら今このようにヴァイオリンを続けていなかったかもしれない、ありがとうございましたとのこと。」(ｼﾞｭﾆｱｵｰｹｽﾄﾗ団員保護者)
「会場確保の件で以前から相談を受けており、シンフォニーホールの抽選会にも参加されたが、抽選に漏れてしまい、会場確保に困っている団体様に、（休館が決定している）倉敷市民会館の抽選の情報をご連絡したところ、『そうやって、他館の状況まで気にして下さり、活動を支援してくださる館があることが、すごく嬉しいし励みになります』とのこと。『絶対、また時期をみてシンフォニーで演奏会をします！』とのことでした。」（利用団体）

（2）自己評価

評価項目⑥：運営体制と持続可能性

（※1）・（※2）…R7年度評価補助シートから転記すること。
※太枠内に記入してください

○「実現性」の項目より〈（ア）～（エ）〉

評価の観点	（ア）多様な財源の確保 予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	（イ）広報・営業力 広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。
現状（※1）	民間助成金にも積極的に申請し獲得に努めている。またﾚｼﾞﾃﾞﾝﾄｶﾝﾊﾟﾆｰ(岡山ﾌｨﾙﾊｰﾓﾆｯｸ管弦楽団)は県市の文化政策の実現に向けて常に自治体と連携しながら運営している。	岡ﾌｨﾙ賛助会員は会員の増加に向けた広報･営業や既存会員へのﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟ（魅力や意義について）に努めており、安定的に寄付金収入が得られるように取り組んでいる。
目標(値)（※2）	県市からの継続的な支援及び新規事業への負担金の増額を目指している。	2023 年 11 月に「税額控除」対象法人としての証明を受けたことから、寄付者(賛助会員)にとって有利な環境を整えることで、継続的な寄付金(賛助会費)の獲得を目指す。
実績(値)	R7 年度実績（財団全体） 公的補助等 ・岡山市　37,400 千円 ・岡山県　19,923 千円 民間 ・補助金、共済負担金　1,550 千円 ・寄付金（賛助会費）法人　16,900 千円 （賛助会費）個人　1,340 千円	R7 年度実績 広告協賛　3,201 千円 寄付金（賛助会費）法人　16,900 千円 （賛助会費）個人　1,340 千円
団体の自己評価	行政の文化政策と密接に連携しつつ、適切な運営を安定的に実現している。民間資金の獲得としては、賛助会費や民間助成金を確保するなどにて、公的支援にばかり頼らない自主的な資金調達に励んでいる。今後も岡山フィルを軸とした自治体連携に加え、獲得財源の多様化を図っている。	岡山シンフォニーホールは、重要財源である岡山フィル賛助会員増加に向けた広報・営業活動において活発な呼びかけを続けてきた。寄附者に対しては、会員参加による利点の PR を行い、既存会員に対してはフォローアップを通じた魅力発信に努めている。近年は各団員へファンの定着化を図り、出演者ごとの紹介カードの作成による推しアーティストを生む試みを始めている他、演奏会後のお見送りでのお声がけなどの戦略を仕掛けている。 令和 7 年度の実績として、安定した会員数を獲得していることから、広報･営業活動が一定の成果を上げていると判断できる。

評価の観点	（ウ）他館連携 他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。	（エ）設置者 円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。
現状（※1）	当館(岡山ｼﾝﾌｫﾆｰﾎｰﾙ)と岡山芸術創造劇場の指定管理者として、多様な専門性やﾉｳﾊｳを持つ人的資源を持っていることから、部署をまたいだﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄﾁｰﾑでの業務など多彩な人材が交流しながら業務を行っている。	設置者「岡山市」の外郭団体として、財団の中期経営計画取組に関する評価を受けている。
目標(値)（※2）	岡山ｼﾝﾌｫﾆｰﾎｰﾙ休館期間(令和７年６月～)はｼﾝﾌｫﾆｰﾎｰﾙの職員を一部岡山芸術創造劇場に配属することで、これまでの両館の業務の見直し、課題解決や戦略的な運営に向けた取り組みを行い、ﾉｳﾊｳや経験値を活かしながら、双方の職員のｽｷﾙｱｯﾌﾟを行う。	
実績(値)	大規模改修に係る休館に合わせて、R7 年 6 月から 5 名（施設利用及び舞台技術）を岡山芸術創造劇場に配置換え。ﾉｳﾊｳや経験値を活かしながら、双方の職員のｽｷﾙｱｯﾌﾟを行った。	＜人材＞R8.4 月時点 岡山市現職派遣（交流人事）1 名 岡山市再任用職員派遣　1 名 岡山市 OB 職員　2 名 ＜財源＞ 指定管理期間更新（R8～R12 年度）にあたり、近年の物価上昇や最低賃金の上昇といった社会経済情勢に加え、岡山シンフォニーホールの休館及び再稼働に伴う状況の変化を踏まえ、指定管理料の見直しを行い、財源を確保した。
団体の自己評価	他館連携と組織運営の効率化において、人的資源の相互活用と連携体制を図っている。 　岡山シンフォニーホールと岡山芸術創造劇場ハレノワの両館を運営している財団の強みを活かし、部署をまたいだプロジェクトチームの結成や人材交流を通じた効果的な業務運営を行っている。なお、長期休館中の岡山シンフォニーホールの改修休館（令和 7 年 6 月～）に伴い、施設利用や舞台技術を担当する職員 5 名を岡山芸術創造劇場へ配置換した。 配置換えを通じて、これまでの両館の業務見直しや課題解決に向けた取り組みを実施し、双方の知見を融合させることで職員の経験値向上と戦略的な運営を実現している。	他館連携と組織運営の効率化において、長く人的資源の相互活用と連携体制を図ってきた。 岡山シンフォニーホールと岡山芸術創造劇場の両館を運営している財団の強みを活かし、部署をまたいだプロジェクトチームの結成や人材交流を通じた効果的な業務運営を行っている。なお、長期休館中の岡山シンフォニーホールの改修休館（令和 7 年 6 月～）に伴い、施設利用や舞台技術を担当する職員 5 名を岡山芸術創造劇場へ配置換した。 配置換えを通じて、これまでの両館の業務見直しや課題解決に向けた取り組みを実施し、双方の知見を融合させることで職員の経験値向上を図りつつ戦略的な運営を行っていると判断する。

○「持続可能性に関するチェックシート」より〈(オ) ～ (セ)〉

評価の観点	（オ）芸術監督 芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。	（カ）長期的経営 長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。
現状（※1）	ﾚｼﾞﾃﾞﾝｽｶﾝﾊﾟﾆｰ(岡山ﾌｨﾙﾊｰﾓﾆｯｸ管弦楽団)のﾐｭｰｼﾞｯｸｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰを務めていた故秋山和慶氏の後任が未定であり、芸術監督の配置もないが、専門職を適切に配置し、対応している。	常勤の館長および法人の専務理事が、法人の業務執行理事として当館の経営実務にあたっている。
目標(値)（※2）		
実績(値)	ﾚｼﾞﾃﾞﾝｽｶﾝﾊﾟﾆｰ(岡山ﾌｨﾙﾊｰﾓﾆｯｸ管弦楽団)のﾐｭｰｼﾞｯｸｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰを務めていた故秋山和慶氏の後任が未定であり、芸術監督の配置もないが、専門職を適切に配置し、対応している。	他館連携と組織運営の効率化においては、人的資源の相互活用と連携体制を図っている。 岡山シンフォニーホールと岡山芸術創造劇場の両館を運営している財団の強みを活かし、部署をまたいだプロジェクトチームの結成や人材交流を通じた効果的な業務運営を行っている。なお、長期休館中の岡山シンフォニーホールの改修休館（令和7年 6 月～）に伴い、施設利用や舞台技術を担当する職員 5 名を岡山芸術創造劇場へ配置換した。 配置換えを通じて、これまでの両館の業務見直しや課題解決に向けた取り組みを実施し、双方の知見を融合させることで職員の経験値向上と戦略的な運営を実現している。
団体の自己評価	現状を維持し、故秋山ﾐｭｰｼﾞｯｸｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰの後任が未決定である。	人員の変動はありつつ、運営可能な人員配置がなされている。財団全体の中長期的展望に対し、新たに加わった職員を中心に、財団の中長期的展望や財団ポリシーの見直しを図っている最中である。

評価の観点	（キ）専門人材の確保 今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。	（ク）職制の整理 芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。
現状（※1）	舞台技術、施設管理、ｱｰﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ、経営・労務管理など、必要な職能を持つ職員を適切に配置しており、各ｾｸｼｮﾝにおいて人材育成にも努めている。	それぞれの専門ごとに管理職(ﾘｰﾀﾞｰ職)を配置し、組織体制を整備している。
目標(値)（※2）		
実績(値)	R7 年度採用実績 総務部門 2 名、事業部門 2 名、舞台技術 1 名	それぞれの専門ごとに管理職(ﾘｰﾀﾞｰ職)を配置し、組織体制を整備している。
団体の自己評価	ホール運営に必要な数の専門人材が確保されているといえる。	適切に専門分野ごとの管理職が配置されていると判断する。

評価の観点	（ケ）世代間バランス 年齢バランスを考慮した人材確保を行っている（若年層の雇用に努めている）。	（コ）ジェンダーバランス 女性管理職比率が 30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。
現状（※1）	新卒採用や若年層の中途採用にも力を入れおり、採用実績は R7 年度 3 名(内､20 代 1 名)､R6 年度 11 名(内､20 代 4 名･30 代 3 名)	女性管理職比率は 20%だが､職員全体では 73 名中 48 人が女性(約 66%)､そのうちﾘｰﾀﾞｰ的役割を担うﾌﾟﾛﾊﾟｰ職員(管理職を除く)は 17 名中 9 名が女性(約 53%)である。
目標(値)（※2）		
実績(値)	新卒採用や若年層の中途採用にも力を入れおり、採用実績は R8 年度 4 名(内､20 代 4 名)､R7 年度 3 名(内､20 代 1 名)	R8.4 月時点での女性比率 管理職　20%（2 人/10 人） 職員全体 約 65%（46 人/71 人） ﾌﾟﾛﾊﾟｰ職員(管理職を除く)　約 54%（7 人/13 人）
団体の自己評価	新卒採用・若年層の中途採用に尽力しており、一定の成果を上げていると判断できる。	財団全体でのジェンダーバランスは 54%と適正数値だが、管理職では女性比率が少ない。

評価の観点	（サ）ワークライフ・バランス 仕事と育児・介護等の両立支援制度を整備し、推進している。	（シ）コンプライアンス順守 情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。
現状（※1）	規程を整備するとともに、管理職向けの研修を実施。 現在育児休業中の職員は３名(男性２名・女性１名)で、業期間は全員約１年間を取得中。	ｾｷｭﾘﾃｨｰﾎﾟﾘｼｰおよびｺﾝﾌﾟﾗｲｱﾝｽ規程を定めており、R3 年度に全職員対象の研修を実施、以降は新規採用者向けの研修を実施している。
目標(値)（※2）		
実績(値)	＜R7 年度育児休業取得実績＞※取得率１００％ 男性２名・女性１名 （休業期間：約１１ヶ月～約１年２ヶ月） ＜R7 年度研修実績＞ 一般職員向け労務研修実施 テーマ：「仕事と家庭の両立支援制度について」 管理職 職員向け労務研修実施 テーマ：「管理職の役割とは」	「個人情報保護規程」「特定個人情報取扱規程」「情報セキュリティポリシー」の規程をはじめ、「情報セキュリティハンドブック」などのマニュアルを職員のポータルサイトに格納し、職員が適時参照できるようにしている。
団体の自己評価	男女ともに育児休業の取得ができており、復帰後も各職員に適した働き方を継続している。	各規程マニュアルの閲覧が容易に可能であり、必要な研修も実施されている。

評価の観点	（ス）ハラスメント防止対策 職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。	（セ）適正な契約事務 アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。
現状（※1）	ﾊﾗｽﾒﾝﾄ等対応ﾏﾆｭｱﾙを設けて周知するとともに、管理職向けの研修を実施している。	ｱｰﾃｨｽﾄやｽﾀｯﾌとの契約については、すべて書面にて適正に交わしている。
目標(値)（※2）		
実績(値)	＜R7 年度研修実績＞ 一般職員向け労務研修実施 テーマ：「職場のハラスメント防止について」 管理職 職員向け労務研修実施 テーマ：「管理職の役割とは」	ｱｰﾃｨｽﾄやｽﾀｯﾌとの契約については、すべて書面にて適正に交わしている。
団体の自己評価	適切な行動指針が策定・周知されており、必要な研修が実施されている。	ｱｰﾃｨｽﾄ・ｽﾀｯﾌとの契約書は書面にて交わされている。

（3）総評

※太枠内に記入してください。

団体の自己評価
岡山シンフォニーホールは、現在大規模改修による長期休業中である。しかし休館中であっても、物理的な拠点の有無に左右されない高い「ソフトパワー（人材・企画力・信頼関係)」を有しており、拠点ホール以外の施設との連携を経て、各事業は変わらず実施できている。これは、岡山シンフォニーホールの有する高い拠点機能が、アウトリーチや他館連携を通じて地域社会における「実演芸術の牽引役」として発揮されたものである。休館中であっても拠点ホールとしての役割を変わらず果たしており、特に普及啓発事業での新規参加者増加や、小中学生への高い教育効果が示されており、このことからホールが市民の「心の拠点」として強固な信頼を得ているといえる。休館中という制約下で発揮された成果こそが、当財団の真の強みなのである。 人材育成プログラムの質は極めて高く、ホールの有する高い制作・教育力が推し量られる。指導者と受講生の信頼関係も良好であり、国際的なキャリア形成支援においても 100%の意識変化をもたらすなど、確かな成果を上げている。また、組織運営においては、おおむね良好であると判断できる。加えて、他館との連携により戦略的なリソース活用がなされている。(例: シンフォニーホールとハレノワの両館運営を活かし、休館に伴う人的資源の相互配置やノウハウ共有を戦略的に実施) 財団全体の健全な職場環境の整備という面では、育休取得率 100%などの点から、 ワークライフバランスが適正に維持され、コンプライアンス、ハラスメント防止対策が制度・運用ともに高い水準にあると判断できる。安定した財政基盤の確保や公的補助の適切な受入に加え、賛助会費や民間助成金の獲得により財源の多様化を図っており、広報・営業活動も一定の成果を上げている。 今後の課題と改善の方向性としては、芸術・経営体制の整備であり、芸術監督（ミュージックアドバイザー後任）が未決定である点や、中長期展望の見直しが現在進行形である点が課題として挙げられる。 次世代・多様性への対応においては、 ユース層（若年層）の集客が目標の半分以下に留まっており、デジタル広報（SNS）の強化と戦略的な演目配置が急務である。 組織の多様性（ジェンダーバランス）においては、 職員全体の女性比率は高いものの、管理職の女性比率（20%）は目標値（30%以上）に届いておらず、登用の推進が求められている。 運用の質的向上においては、福祉施設等との連携に求められる、より綿密なヒアリングによる「ニーズの不一致」の解消など、持続可能な協力体制の深化が必要となる。 本財団の有する、高い「ソフトパワー（人材・企画力・信頼関係)」は、拠点ホールが休館中の現在、より顕在化していると言えよう。今後はリニューアルオープンに向け、未解決の指導者ポストの充足やデジタル対応、ジェンダー平等の推進を図ることで、組織としての持続の可能性をさらに高めていく段階にあるといえる。 休館であるからこそ成しえた様々な施設・地域との連携に新たなレジデントカンパニーの岡山フィル認知度の向上とファンの拡大効果を生んでおり、通常稼働中では得難い経験として蓄積されている。岡山シンフォニーホールは、より創造性の高い中国地方における拠点ホールとして力を蓄えている最中である。2027 年 6 月のリボーン（生まれ変わり）再稼働への期待感は日に日に高まっており、これまで以上の中四国の中核ホールとして、より大きな役割を担うべく、組織・人材の体制整備を進めているところである。

備考